

東京を走らせる力



16-28

2016年3月24日

人財育成を通して更なる安心を提供するために 2016年4月1日（金）に総合研修訓練センターを開所します！ ～部門を横断した訓練による総合力の向上を目指します～

東京メトロ（本社：東京都台東区 社長：奥 義光）では、お客様に安心してご利用いただけるよう、日々の教育や訓練を通して人財の育成を図っておりますが、この度、現在の研修センターの機能を拡充した「総合研修訓練センター」を2016年4月1日（金）に開所いたします。

当センターは、これまで各所に点在していた各部門の研修施設を統合し、研修棟と営業線に準じた訓練線を有しており、時間的・空間的制約を受けずに複合的かつ総合的に知識・技能を習得できる施設です。また、過去に起こした事故を風化させず、同じ過ちを二度と繰り返さないよう安全意識の高い企業風土を築くことを目的とした「安全繋想館」（旧「事故に学ぶ展示室」）を併設しています。

鉄道員として広い視野と最新技術に対する高度なスキルやノウハウを習得した人財を育成することを目指し、当センターで日々の研修や訓練を重ねるとともに、部門間の連携を深めることで、東京メトログループの総合力を高めてまいります。

また、国内外の鉄道事業者と交流を深め、鉄道業界全体の発展のために知識や安全性を共有する場として本センターを活用することで、更なる鉄道業界の発展に貢献してまいります。

東京メトロでは当センターを最大限活用し、人財の育成を通してお客様に更なる安心を提供していきます。

総合研修訓練センターの詳細は別紙のとおりです。



「総合研修訓練センター」について

- 名称：総合研修訓練センター
- 所在地：東京都江東区新木場4丁目4番15
- 面積：敷地面積 約27,000㎡ 延床面積 約19,000㎡
- 施設：訓練線（総延長約700m、模擬駅3駅）、研修棟（地上5階建て）
- 特徴：

① あらゆるシーンを想定した総合的な研修・訓練が可能に

「メトロで起きうる全てのことはここで起こせる」をテーマに、駅、軌道、トンネル、橋りょう、架線、電気設備、信号設備、指令所などメトロのすべてを高密度に集約しており、部門間の連携を深めながら、いつでも・失敗をおそれず・本番さながらの訓練が可能となります。

訓練線設備は、「技術実習線エリア」と「運転実習線エリア」の2エリアで構成されます。電気が流れていない「技術実習線エリア」では、列車が走行しないため、設備の分解や修理等の研修を行うことができ、「運転実習線エリア」では、トンネル区間と地上区間を兼ね備え、実車を使用したより現実的な訓練を行うことができます。

また、研修棟施設では、これまで各所に点在していた各部門の研修施設を統合し充実させることで、総合的な人材育成を可能としています。

② 目で見て、耳で聞いて、心で感じる「安全繋想館」を設置

決して忘れてはならない日比谷線列車脱線衝突事故は勿論のこと、過去の事故の貴重な教訓を風化させることなく、『安全確保』への強い想いを未来に繋ぐことで、更なる安全意識の高い企業風土を築き上げていくことを目的に開設しました。また、「人間の起こす失敗(エラー)は背景(要因)がある」ことを理解させ、ヒューマンエラーを未然に防ぐための「気づき」を養う場として活用します。

③ 自然エネルギーを活用した環境に配慮した施設

屋上には太陽光パネル（約300㎡=30KW/h）を設置し、当センター内の補助電源として活用します。また屋上壁面緑化により、断熱性や快適性を向上させるほか、地中熱利用空調システム※を導入し、環境負荷低減に努めています。

※地中熱利用空調システムは地中の熱を冷暖房の熱源として利用し、省エネルギー化を図るものです。

夏季は地中に排熱するため、都心部でみられるヒートアイランド現象の緩和にも貢献します。

